

18.卒業生・修了生への支援活動

1)再就職や進学・就職・国家試験への支援

卒業生に対しては、看護研究指導教員を中心に、メールや面談による相談を受けて、キャリアアップ支援を継続している。今年度もコロナ禍で高知女子大学看護学会および高知県立大学看護学部同窓会ともにWEB開催となり、卒業生と直接交流する機会は減少したが、3回生対象の「先輩から話を聞く会」や「3回生就職ガイダンス」で、講師として招いた県内在住の卒業生が、この機会に看護研究指導教員のもとを訪れ、キャリアアップに関して相談するなどしていた。また、各専門領域の教員は、卒業後5年前後の人を対象に、大学院進学への相談を実施したり、大学で実施している教育研究活動・地域貢献活動・ケア検討会への参加を促したりして、卒業生のキャリアアップ支援を継続している。国家試験受験対象となる卒業生への支援を実施した。

2)高知県内の卒業生に対するキャリア支援

今年度から、看護学部卒業生繋がり・キャリア支援プロジェクトを上げた。このプロジェクトを中心に、主に高知県内に就職した概ね5年目までの卒業生の就業継続とキャリア支援を、看護学部全体で行うことになった。看護学部で使用できるスマートフォンを購入し、卒業生と教員がSNSで連絡ができるようにして、有効な繋がり続けるシステムを作った。令和5年度は、大学院進学の情報提供や再就職を希望する学生とのやり取りを、プロジェクトを通じて行えるようにする予定である。また、高知県立大学同窓会と看護学部、プロジェクトが共同で、卒業生名簿を管理できる同窓会名簿管理システムの導入を検討中である。管理システムを有効に活用し、看護学部の現状や今後、卒業生向けの看護相談室やリカレント教育などの情報提供も、今後、取り入れる予定である。

3)CNS認定等の支援

看護学研究科博士前期課程では、平成12年3月に1期生が修了して以来、専門看護師の認定試験に向けて支援を行っている。大学院修了前に主指導教員は、大学院生の背景や個性を尊重し、修了後の資格認定までの計画を学生とともに立案している。修了後は、その計画に沿って定期的に事例検討会や勉強会の開催、コンサルテーション、大学院の特別講義の連絡や講師依頼、共同研究、先輩CNSの紹介などを行い、CNS認定及び認定更新への支援をしている。

令和4年度までに専門看護師コースを修了し、認定試験に合格した専門看護師は、9領域145名であり、研究コース、実践リーダーコースにおいては修了後、27名が認定看護管理者の資格を得て、活躍している。令和4年度は、がん看護CNS1名、急性・重症患者看護CNS2名、老人看護CNS2名、小児看護CNS2名、家族支援CNS3名、在宅看護CNS1名、精神看護CNS1名の計12名の修了生がCNS認定試験に合格し高度実践看護師として活動し、認定看護管理者1名が資格を得て活動している(表1)。

表1 修了生の専門看護師・認定看護管理者認定数

領域	がん看護	慢性疾患看護	急性・重症患者看護	小児看護	精神看護	家族看護	地域看護	在宅看護	老人看護	看護管理	合計
令和4年度	1		2	2	1	3		1	2	1	13
総計	46	4	10	26	21	20	2	11	5	27	CNS:145名 認定看護管理者:27名

4)看護学部同窓会活動

令和4年度、看護学部同窓会役員一覧は、表2の通りである。

表2 令和4年度同窓会役員

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	中山洋子	16期生	文教学院大学大学院
副会長	藤田佐和※1	28期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美	27期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38期生・修士13期生・博士18期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士7期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里	46期生・修士12期	高知県立大学看護学部
会計監査	野田真由美	34期生	高知市保健所
	矢野智恵	38期生・修士1期生・博士17期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25期生・修士5期生	芸西病院看護部
	池添志乃	34期生・修士2期生・博士1期生	高知県立大学看護学部
	川本美香※2	修士13期生・博士18期生	高知県立大学看護学部

但し、※1：看護学部長、※2：看護学会役員は当て職である

(1) 令和4年度の活動

- ①第12回同窓会総会の開催
- ②役員会の開催
- ③講演会(高知女子大学看護学会との共催)
- ④会報(第25・第26号)の発行
- ⑤学生及び同窓生活動への支援
- ⑥高知女子大学看護学会への支援
- ⑦緊急奨学金貸与および給付型特別奨学金

(2) 活動の実際

① 第12回同窓会総会の開催

COVID-19感染拡大防止と会員皆様の健康と安全面への配慮から、令和4年度の同窓会総会の対面での開催を中止し、文書(議決権)送付による総会とし、議案賛否のお返事をいただく形とした。議事として、(1)令和3年度活動報告、(2)令和3年度決算報告、(3)令和3年度会計監査報告があった。また、審議事項として、(1)令和4年度活動計画案、(2)令和4年度予算案、(3)令和4年度同窓会役員について審議し、承認された。

② 役員会の開催

役員会は、3回開催した。第1回役員会はオンライン開催し、本年度の活動、会報、総会および懇親会の企画、給付型特別奨学金等について審議し、役割別年間スケジュールが確認された。第2回役員会は、同窓会総会の企画、会報25号、同窓生への活動支援について審議された。第3回役員会は1月23日にオンラインで行い、同窓会報第26号、令和5年度活動案、同窓生への活動支援等について審議された。

③ 講演会の開催(高知女子大学看護学会との共催)

講演会は、7月16日高知女子大学看護学会との共催でWeb開催された。今回のメインテーマは「看護におけるイノベーションの創出」であり、学会員と一般参加者合わせて141名の参加があった。

テーマ：「看護におけるイノベーションの創出～遊び、まじめ、アイデアの異界越境から～」

講師：松下博宣先生

(東京情報大学看護学部 教授)

④ 会報の発行：令和4年度は、第25号と第26号の2回の会報を発刊した。

a. 第25号の発行

第25号は、第12回総会の報告に合わせて令和4年10月31日に発行した。本号では、令和4年度同窓会総会報告、同窓会役員紹介、令和3年度活動・会計報告・令和4年度予算案、第48回高知女子大学看護学会報告、7月17日に開催された看護開発研究会報告、看護学部は今等を掲載した。

b. 第26号の発行

会報第26号は令和5年3月に発行した。本号では、活躍されている卒業生・修了生による報告、メッセージ、活動支援を行った家族看護学会学術集会報告等で構成した。

⑤ 学生及び同窓生活動への支援

卒業生、修了生が学会長として開催した家族看護学会学術集会への支援を行った。

⑥ 高知女子大学看護学会との共催

平成25年度より、高知女子大学看護学会へ毎年資金支援を行っており、令和4年度は、30万円の支援であった。同窓会発足当時より、高知女子大学看護学会との共催で講演会を開催しており、今後も、両者の連携を図りながら、学術の進化、ネットワークの拡大に努めていく方針である。

⑦ 緊急奨学金貸与および給付型特別奨学金

令和4年度の緊急奨学金、給付型特別奨学金の貸与の申請はなかった。